

平成 21 年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次・後期・A群
	対象学科・専攻	機械工学科
機械設計法 (Machine Design)	担当教員	南金山 裕弘 (Nakiyama, Yasuhiro)
	教員室	機械工学科棟3階 (Tel. 42-9111)
	E-Mail	nakiyama@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 履修単位 / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 15回	
〔本科目の目標〕機械を構成する各種の要素について、理論と実用面から使用目的に応じた材料の選択と必要形状を決定できる能力を修得するとともに、製図との関連性を持たせ製品の耐久力、保守、経済性、外観等の必要性についても学習することを目標とする。		
〔本科目の位置付け〕本教科は材料力学、材料学、製図との関連性が高く、一つの機械を設計する場合にそれらの知識をどのように応用するか理解するものである。		
〔学習上の留意点〕日頃より身近な機械類に関心を持ち、その機械の機構および材料がどのようなものから成り立っているのか良く観察することが重要である。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 機械設計の基礎	6	ねじ、歯車など機械に共通して用いられる機械部品について理解できる。 引張荷重、圧縮荷重、ねじり、せん断など各種荷重について理解できる。 材料に荷重を掛けた場合の応力とひずみの関係について理解できる。 材料強度と実際に許される荷重との関係について理解できる。
2. ねじの設計	8	ねじの原理について理解できる。 ねじの形状とその用途について理解できる。 六角ボルト、六角ナット、小ねじ、木ねじなどのねじ部品が理解できる。 ねじのゆるみ止めの方法が理解できる。 ねじ部品の設計計算ができる。
- 後期中間試験 -		授業項目 1 ~ 2 について達成度を確認する。
3. キー・ピン・止め輪の設計	6	機械部品を締結するために用いられる締結用機械要素について理解できる。 軸とボスとにキーをはめ込む場合のキーの大きさおよび強度が計算できる。
4. 軸・軸継ぎ手の設計	10	回転軸として用いられる軸について理解できる。 軸の強度および直径が計算できる。 軸の危険回転数が計算できる。 二つの軸を連結する機械部品である軸継ぎ手について理解できる。
- 後期期末試験 -		授業項目 3 ~ 4 について達成度を確認する。
試験答案の返却・解説		各試験において間違った部分を理解出来る。
〔教科書〕機械設計入門 大西 清 理工学社		
〔参考書・補助教材〕なし		
〔成績評価の基準〕中間試験1回(45%) + 各期末試験(45%) + 小テスト(10%) - 授業態度(上限20%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕3-c		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕		
〔JABEEとの関連〕		